

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 28

事業所番号	2690100173		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム京都北山の家1号館		
所在地	京都府京都市北区鷹峯光悦町32-1		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様に楽しんでいただける様に日々工夫し、取り組んでおります。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	t特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成29年2月6日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>京都市北部、北山に接する、市内でも有数の観光寺院や神社が多数ある地域、光悦寺の近くにある開設満2年になるグループホームである。建物が接している広い竹林から季節ごとの風がさわさわと渡ってくる。開設以来、種々の事情から管理者の交代が続き、現在3人目であるものの、リーダーを中心に職員は「利用者には楽しい生活をしてほしい」という願いのもと、職員自身も楽しくありたいと、頑張っている。毎朝の散歩、雨天でも玄関前で体操やおしゃべり、近くの植物園や季節ごとのドライブをしている。駐車場でカレーを炊いて竹林を見ながら、わいわいと食べている。お正月には白みそのお雑煮を、自身で作った祝箸でいただき、カルタやトランプを楽しむ。節分には職員のお鬼にむかって豆まきを、クリスマスには丸ごとチキンのロースト等、季節の行事も欠かさない。書道は毎月、時にはお茶会を、将棋の好きな利用者には相手がいって楽しんでいる。野菜を育てたり、つけものをつけている。高齢で認知症である利用者には、あたりまえの生活を支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	我々、政本グループは福祉、介護サービスを提供し、高齢者の生活を支えるとともに、地域の雇用を守り社会の安定に貢献します。これを毎週、朝礼にて読み上げ理念を教諭できるよう努めている。	法人の理念があり、事業所内に掲示している。利用者や家族には契約時に説明している。管理者やユニットリーダーにはグループホームの目指したい姿があるものの、理念にはなっていない。	グループホーム京都北山の家において、目指したい姿、ケアの方向性等について、職員の話し合いにより、理念という形にまとめ、日常の業務の核とすることが求められる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での夏祭り、運動会、サロン講習会等に参加させていただいている。	利用者はふだん、事業所のあたりを散歩し、出会った地域の人たちとあいさつしている。近くの小学校で開催されたふれあい祭りに参加し、屋台を楽しんだり、学区の運動会を見に行ったりしている。近くの老健で開催されるコンサートを聞きに行く。事業所の駐車場で町内の地藏盆が行われる。地域の人が遊びにきたりすることはない。地域貢献の取組はない。	利用者がこの地域で豊かな生活が送れるような取組、例えば近くに親しい友人、行きつけの喫茶店や理美容店、ちょっとした買物の店等ができたりすること、また事業所としての専門性を生かした地域貢献の取組、以上の2点が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロンや、講習会にて他施設自治会地域住民の方々と交流している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第四木曜日に実施している。	利用者、家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センターが委員となり、隔月に開催し、記録を残している。利用状況、事故、行事等の事業所からの報告のあと、意見交換している。学区運動会の開催等の地域情報をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	北区支援課の担当者との連絡を取り合っている。	北区介護保険担当者等とは日常的に報告・連絡を怠らず、連携を保っている。地域包括支援センター主催の会議に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の規定に則り身体ゼロの取り組みを実施している。	「身体拘束をしないケア」を契約時に利用者に約束しており、身体拘束11項目の事例はない。身体拘束に関して毎年研修プログラムに組み込み、職員研修をしており、職員はスピーチロックについても認識している。事業所の玄関ドア、グループホームのドアは施錠していない。エレベーターがキロックとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行われている社内研修にて学ぶ機会を設け、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	サービスを利用されている方も入居されているため、業務の中で制度について係わることができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時等には、新たな契約書を作成し、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等、意見要望があれば伺い、運営に反映させている。	何かあるときは家族に電話し、利用者の様子等も伝えているものの全利用者ではない。行事の写真を掲載した『北山の家通信』を隔月に発行し、家族に送付しているものの、職員紹介、献立等の報告はなく、行事案内をしてお誘いをする等もしていない。3分の1くらいの家族は毎月面会に来訪するものの、家族交流の機会はない。家族から運営についての意見はない。	毎月面会にこれない家族も多いので、広報誌には職員紹介、ある日の献立等を掲載し、行事予定により、参加をお誘いし、同時に個々の利用者の様子を一筆箋に書き、利用者の写真を添えて家族に毎月送付すること、1年に1回くらいは家族が交流する機会を設けること、以上の2点が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に一度実施し、意見や提案を聞いている。	職員会議を毎月開催し、運営について話し合い、職員は意見を出しあっている。会議にはその時の勤務職員が参加し、欠席の職員には記録の点検を義務づけている。ケースカンファレンスはユニット別に実施している。職員は異動、外部研修受講、資格取得等の希望を言うことができ、資格取得には受講料等の援助がある。法人には新任から段階を踏んだ研修カリキュラムがあり、該当者は義務として受講し、また年間研修プログラムについては毎月事業所内で実施している。外部研修は情報を提供し、希望者が受講している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に則り、業務を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修にて資格取得などを推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の勉強会等に参加し、サービスの質の向上を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接にて聞き取りを行い安心して暮らしていただけるような関係、環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面接を行い話し合うことにより信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要があれば福祉用具等のサービスとも調整を行い支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	フロア間の入居者同士の交流会や働きかけを行い人間関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡調整を行い、安心して暮らせる環境を提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は消灯時間までゆっくりと過ごしていただけるよう心掛け、外出レクではなじみの土地付近を通るようになどの工夫を行っている。	利用者の友人が来訪すると利用者は楽しそうにおしゃべりしている。ドライブのついでに、利用者が以前住んでいた家の近くを通っている。	長い人生を過ごしてきた利用者には懐かし人や場所がある。友人、隣の人、仕事仲間、趣味の友だち、遠い親類で最近あまり会っていないけれど気になる姪や甥等の人たち、また夫と観光した場所、毎年花見に行った所、祇園祭りや送り火等、そういった馴染みの人や場所の情報を収集し、支援することが求められる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立してしまうことが無いように、常に声掛けを行い、入居者同士でかかわりあう時間をもて、楽しんでいただけるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約中と変わることなく相談、支援を行うことと理解している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面接にて聞き取りを行い、ケアプランに反映させ、検討している。	利用開始時には利用者や家族、居宅のケアマネジャー等から情報を得て、フェイスシートに記録しているものの、ほとんどが利用に至るまでの経過であり、生活歴の情報は無い。利用者や家族の思いはありのままに書かれている。	長い人生を過ごしてきた利用者のこれからの暮らしをグループホームでどのように支えて行けば「その人らしい暮らし」ができるのか、そのためには利用者の生活歴を知ることが欠かせない。生活歴の情報を収集することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート等に反映させ、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや経過記録により職員が周知できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実施できている。	介護計画はケアマネジャーが作成し、職員に周知を図っている。ほとんどの利用者が「レクや行事に参加」「日中はフロアで過ごす」「朝の散歩や体操」等であり、個性が少なく、自立支援になっていない。介護記録は介護計画を実施したかどうかの○×で表している。モニタリングは毎月実施し、「目標達成度」「満足度」について点検しているものの、1～3の段階評価である。	介護計画は利用者ごとに個別で自立支援になっている必要がある。レクと書かずに、利用者の好きなレクは何かを計画に挙げる。フロアでの会話ならどんな話題が楽しいのかを探って計画に挙げる。介護記録は介護計画を実施したときの利用者の表情や発言、拒否があればその要因等を書き、モニタリングの根拠となるようにする。モニタリングは「目標達成度」「利用者満足度」等を検討し、コメントを書く。以上の3点が求められる。」
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人本位の個々にあったプランを取り入れ、実施できるよお務めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に密着し楽しく生活が送れるよう、地域の活動に積極的に参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2日の往診にて、医療面での支援を受けている。	協力医療機関の病院から毎月2回往診に来てくれ、入院も利用している。認知症の受診は他の専門医を利用している人もおり、家蔵が受診に同行する場合もある。その際はグループホームでの状況を文書にして医師に提供している。歯科は訪問歯科医を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、看護師等に連絡を取り連携を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、常に情報交換を病院関係者との信頼関係を構築している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	関係各所と連絡調整を行い十分な支援ができるよう努めている。	利用者が重度化した場合や終末期について、できるだけだけの支援をしたい思いはあるものの、グループホームとしての方針の文書化はしていない。利用者や家族の終末期についての意向を聞いていない。	利用者が重度化したり、終末期を迎えた場合のグループホームとしての方針を文書にし、契約時に利用者や家族に説明し、その段階での意向を聞くことが求められる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人のマニュアルや社内研修にて学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した、避難訓練を実施しており、消防署、自治体への報告を行っている。	消防署の協力を得て火災の避難訓練を年2回している。ハザードマップをスタッフ室に掲示し、職員は危険箇所を認識している。備蓄を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを込めながらも、丁寧な声掛け、対応を行うように努めている。	プライバシー保護や接遇に関して職員研修をしており、職員は親しいなかにも丁寧な対応や言葉かけをしている。職員同士の申し送りは利用者に聞こえないように、職員会議は会議室で実施している。飲み物や衣服、美容師への髪型の注文等、利用者が自身で選択できるように支援している。利用者は電話をかけたい、手紙を出したい等の希望を言っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定できるような声掛けや、雰囲気、対応を行うよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに合わせて、支援を行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容を行い利用者本人に合わせた身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に関しては、職員が横につき参加していただくこともあり、準備、片付けについては毎食事ごとに協力していただいている、	朝食はご飯に味噌汁と副菜、あるいはパンとコーヒー、卵料理等を職員が手作りしている。昼食と夕食はカロリー値と栄養バランス点検済みで調理済のものの配達を利用している。季節ごとの行事食もある。月に1回は焼きそば等を手作りし、漬物をつけている。食器洗いは利用者が担当している。花を飾った食卓を4、5人ずつが囲んで会話しながら食事を楽しんでいる。認知症による食事に課題のある利用者については専門医に相談している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理された食材を提供し、個々に合わせた分量や形態に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施していただいている。夜間は入れ歯を保管させていただきポリデント消毒を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在は日中、全入居者がトイレにて排泄されています。	3分の1くらいの利用者は排泄の自立をしており、布パンツ使用で自身がトイレに行っている。他の人はリハパンとパットの使用、職員がそれぞれの排泄パターンを把握しており、声掛け誘導している。排便に関しては運動、水分を心掛けており、薬の使用もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談するとともに、食事面で野菜を多く採っていただけるような工夫を行うなど、便秘改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り、それぞれの希望に添えるように支援し、足浴も行ったりしている。	家庭風呂より少し広めの浴室の中央に浴槽を据えている。毎週2回の入浴を支援しており、利用者の入りたいタイミングを大事にし、ゆっくり入りたい人にはゆっくり、途中で湯をかけたり、入浴を楽しめるようにしている。利用者は気分がほぐれて介助の職員との会話が弾み、「しゃべれてよかった」と喜んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のライフスタイルに合わせて、昼寝していただいたり夜間は、エアコンを使用し快適に過ごしていただけるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬剤説明書にて、確認を行うように努め、職員周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や希望に添えるように、レクリエーション等の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天以外は毎日の散歩や外レクのほか、他地域の様々な行事等にも参加させていた	利用者は毎朝近くを散歩している。初詣、花見、紅葉狩り等の季節のドライブをしている。近くの植物園は温室が利用者に好評である。大原まで出かけたこともある。利用者から、アメが買いたい、リップクリームや靴下がほしい等の希望があれば、利用者と一緒に買いに行く等の個別の外出をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失予防のため、金庫で保管させていただいているのが現状である。希望され、必要なものは職員が買いに行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、手紙や電話について対応を行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう、貼り絵などの作品にも旬のものを取り入れたりとしている。	事業所の2階と3階がグループホームであり、廊下の片側に居室が並び、反対側にスタッフ室、浴室、ミニキッチン付きの居間兼食堂が並んでいる。居間兼食堂は大きな窓から季節の風景が見える。居室のドアに貼った表札替わりのイラスト、折り紙等がやわらかい雰囲気を出している。大きなカレンダー、時計を設置し、時の見当識に備えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやいす等の配置等を工夫し必要があれば移動して対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた身の回りの物や、好きなものを持参していただき住み慣れた空間に近付け、希望された必要なものを購入したりとしている。	居室は洋間、入口近くにカーテンをかけた収納庫があり、ベッドを備えている。利用者は使い慣れたふとん、毛布、枕、チェスト、机と椅子、テレビ等を持ち込んでいる。チェストの上に置かれた大きな鏡、その前の化粧品、置時計、夫の写真、人形、椅子に置いたぬいぐるみ、机の上の将棋盤、床に並べた自作の油絵の額、仏壇等々が利用者らしさを感じさせる。壁の鴨居には洋服を掛けており、生活感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒事故等につながるようなものは、おかず安全を第一に生活していただけるよう支援してまいります。		